

ひとくち法話

「お盆の由来について」



区市寺 区市寺 教南乗 六府大 京都 永義 吉永

お盆は盂蘭盆ともいい、盂蘭盆経で説かれた目連尊者の母、青提女へのご供養が行事の由来となっております。

目連尊者は、優れた神通力を持つお釈迦様のお弟子でした。目連尊者は亡くなった母である青提女が、餓鬼道に堕ちたことを神通力

によって知り、何とか救おうとしてご飯や水をお供えするも、捧げた供物は餓鬼道では燃えてしまい、母は苦しむばかりです。そこでお釈迦様に相談したところ、各地の聖僧に対して施しをし、供養するよう教えられ、それによって母は救われたということが盂蘭盆経に説かれています。

日蓮大聖人は盂蘭盆御書というお手紙の中で、青提女は他者に対して施しをしなかったために餓鬼道に堕ち、目連尊者は小乗の教えのために独力では母を救えなかったとお説きになられます。お盆は他者に施す大乘仏教の精神の大切さを説くためのものなのです。また盂蘭盆御書には、法華経を信じると自分自身だけでなく、両

親、先祖、子孫、その他周囲の方々など数限りない人が仏になることができる。それで法華経にも「願わくばこの功德を以て普く一切に及ぼし我らと衆生と皆共に仏道を成ぜん」と法華信仰の功德の大きさが説かれていきます。お盆は「ご先祖を始め縁の有る方にも無い方にも施しをしましう」という行事ですが、

法華経を信仰し、お釈迦様からいただいた功德を周囲にお分けすることこそ、先祖代々から子々孫々まで普く行き渡る最上の施しなので。お盆には、お仏壇に向かってお題目を唱え、信仰を堅固なものにすれば、ご自身、ご先祖、周囲の方々の皆がより一層仏様に近づくことでしょう。

おつとめのお経 一語一話

第十三回

お経の中には、たくさんのお言葉が出てきます。

このコーナーでは、毎回ひとつのお言葉にスポットを当てて解説いたします。

「安穩」 その①

一回にわたり「安穩」についてお話いたします。このタイトルに決めた時、思い出したのは、亡くなった大正生まれの祖母のことです。

祖母が若い時、本多日生上人の説法を聞かれた縁で顕本法華宗に改宗した住職に「法華経の中であなたが一番大切に思われている箇所はどこですか?」と尋ねると、「我此土安穩 天人常充滿」と一言答えられたそうです。その後祖母は、この一節の意味や法華経の教えについて自分なりに勉強を重ね、また信仰も深めていき、戦前、戦後、その間さまざまな災害にも遭いましたが、信仰の力とた



くましい人間力で苦難を乗り越えてきたことを私に話してくれました。

疫病や戦争と、暗い話題が多い昨今ですが、そういう時にこそ、皆さんも祖父母や両親から聞かれた、苦勞話や信仰の話を思い出し、世の中が安穩(平和)であり続けるためには何が必要で、どのようにしなければならぬのか考えてみてください。

私 たち顕本法華宗は、久遠のお釈迦さまを本一人が実践し、争いのない安穩で平和な世界の実現を目指しています。(次号に続く) (成洋)

ぶらり 奇々を訪ねて

かつて好評をいただいた連載コーナーが新しくなりました。ご住職からの一言も紹介いたします。

第1教区

実妙山 法成寺

東京都豊島区駒込 6-8-11

開基 日位上人

創建 慶長15年(1610年)

住職 第26世 秋葉敬真師



東京都



お寺の見どころ

法成寺は、染井吉野桜発祥の地である駒込染井にあります。徳川二代将軍秀忠公の時、藤堂和泉守高虎の祈願所として、両国矢ノ倉に創建されたと伝えられています。寛永の頃、浅草に移り長く法灯を伝持してまいりました。しかし、先の関東大震災、大東亜戦争と度重なる災禍に遭遇するも、その艱難を越えて復興してまいりましたが、近年堂宇の老朽化著しく、檀信徒とともに一結して、木造瓦葺本堂新築と客殿等の大改修を成し、平成30年に落慶を迎え、その寺観を一新しています。

住職として心がけていること

都会の住宅地の中にあるお寺ですが、「心癒される処」である様に常に清浄に勤め、仏様の尊い教えをお伝えする「お寺らしい景観」を大切にしています。どなたでも気楽に訪れ心なごみ、住職がいつでも話を聞いてくださるお寺でありたいと心がけています。さらに、副住職妙琳とともに山内一同が、和やかに迎え入れる温かいお寺であることを守り続けたいと思っています。



第7教区

圓妙山 長栄寺

大阪府高槻市柱本3丁目5-3

開基 圓龍院日縁上人

創建 元和2年(1616年)

住職 第42世 奥村智学師



お寺の見どころ

当山は、淀川中流右岸に位置する『くらわんか船』の発祥地柱本の、豊臣秀頼公を弔う寺院です。当山の名は文禄3年(1594)の柱本村検地帳にも記載されていますが、その当時の宗派は不明です。元和元年5月7日、大坂落城に伴い脱出を決行した秀頼公家臣、大野一族の唯一行方不明となった、次男治房(別名 主馬)が密かに出家して「日縁」と変名し、廃寺同然となっていた当山に隠栖したと伝えられています。慶安2年(1649)9月20日にて遷化されるまでの30有余年間、法華経寺院として再興を果たされた開基日縁上人の墓が、現在まで大切に祀られています。寺宝としては、江戸時代近畿一円の法華経寺院に寄進を続けた「谷口法悦」の板曼荼羅本尊(天蓋と蓮台の色彩が描かれている)2幅と、その背面に貼り付けられた霊墓(法名や寄進者名が書かれた紙)や、谷口法悦の名前の入った涅槃図絵木箱及び、釈迦牟尼仏立像(丈68センチ)が見どころです。

住職として心がけていること

一にお掃除、二にお給仕、三に読経。パソコン不慣れが幸いし、法務以外はいそいそと境内を動く作務衣の住職。田舎寺ゆえの原風景を大切にしています。

令和4年は立正大師諡号宣下100周年です。

新型コロナウイルス感染症拡大等により、外出を控え、自宅でお過ごし読者も多いことと思いますが、この大切な時間を有意義に過ごしませんか。本コーナーでは、前号に続いて「自我偈」の写経を体験していただき、ご自身の「身と心」を清める楽しさを味わっていただければと思います。

写経作法の一例

- 手を洗い、口をすすいで身を清めましょう。
- 着座して(正座・椅子どちらでも結構です)、静かに目を閉じ、心を落ち着かせましょう。
- 合掌して、お題目を三回お唱えし、家族やご先祖に感謝の気持ちを持ちましょう。
- 写経は、ペン・鉛筆・筆ペン等何でも結構です。書きやすいもので丁寧に写しましょう。
- 写し終えたら、合掌して静かに目を閉じ、お題目を三回お唱えして終わりです。
- 写経の字に、上手下手は関係ありません。一文字一文字心を込めて丁寧に写すことが大切です。

出典

妙法蓮華経法華経 第十六章如来寿量品の偈文は、冒頭の文字をとって、「自我偈」あるいは内容から「久遠偈」と呼ばれます。すべての仏典の頂点に立つ法華経、その中で特に大事な偈文が如来寿量品で、さらにその中でも一番の肝心が「自我偈」になります。この経文の底にこそ、末法の衆生が等しく救われる南無妙法蓮華経の法門が秘められていると日蓮大聖人は教えられています。

経文の意味

自我得佛來 所經諸劫數
 無量百千萬 億載阿僧祇



意味：私(釈尊)が最高の悟りを得て仏になってから今日までに、計り知れないほど長い時間が過ぎている。

解説文題本法華宗 おつめのお経の解説より

自我得佛來 所經諸劫數
 無量百千萬 億載阿僧祇
 自我得佛來 所經諸劫數
 無量百千萬 億載阿僧祇

書：秋葉敬真師（東京 法成寺住職。毎日書道展審査会員、書道誌三耀社副会長）

正式な写経をされたい方

法華経「自我偈」全文の写経をされたい方は、総本山妙満寺にお問い合わせください。

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町91番地

顕本法華宗 総本山 妙満寺

電話番号 075-791-7171

URL <https://myomanji.jp>



トマトとキュウリの中華風和え物

材料 2人前

トマト…………… 1個
 キュウリ…………… 1本
 春雨…………… 適量
 長ネギ…………… 適量

合わせ調味料

醤油…………… 大さじ2杯
 酢…………… 大さじ1杯
 ごま油…………… 大さじ1杯
 豆板醤…………… 少々(ラー油でも可)
 砂糖…………… 小さじ1杯

1

トマトは一口大に、キュウリは板ざりした後たたき切りにし、春雨はあらかじめ茹でて冷ましておく。

住職さんのメモ

キュウリはたたきにする
 事で合わせ調味料
 がよく絡むようになり
 ます。



2

ボウルへ調味料を全て入れ、よく混ぜる。合わせ調味料へ長ネギ以外の具材を全て入れ、よく混ぜて馴染ませる。



3

皿に盛り付け白髪ネギをそえて完成。

合わせ調味料の酸味を追加したい場合は酢、辛味を増したい場合は豆板醤の量を増やすなどしてお好みで調整してください。



できあがり



トマトとキュウリの中華風和え物

近所の中華料理店の店主さんから教えていただいたレシピです。シンプルにトマトとキュウリだけでも十分美味しいですがチャーシューやハムを追加すると、より豪華になります。今回は春雨を入れてみました。さっぱりしているながらも味はしっかり付いているので食欲が無い時でも食べたくなる一品です。



吉田広心師

1984年12月26日生、千葉県市原市出身。立正大学仏教学部卒業。総本山妙満寺奉仕生修了後、品川天妙国寺山務職員の経験を経て、現在は本妙寺(市原市滝口)、妙照寺(市原市東国吉)住職を務める。



住職が、心のこもった一品を紹介していただくコーナーです。皆様もぜひ。

(食前の食法) 「天の三光に身を温め、地の五穀に魂を養う。皆これ本仏の慈悲なり。南無妙法蓮華経。いただきます。」
 (天の三光：太陽、月、星。地の五穀：米、麦、粟、豆、黍などの穀物)

学んで トクつむ ケンポンクイズ

問題に答えて、ご応募ください。
全問正解の方に抽選で記念品を
お送りします。

4

目連尊者の
母親の名前は
なんと
言いますか？

ヒントは
P12に

3

三宝とは何を
指しますか？

ヒントは
P8に

2

顕本法華宗の宗章は
何ですか？

ヒントは
P2に

1

顕本法華宗の宗是は
何ですか？

ヒントは
P1に

5

大法要で鐘供養の
法要がありました。
この鐘はなんと
呼ばれますか？

ヒントは
P5に

「ケンポンクイズ」応募要項

官製はがきまたは封筒に、住所・氏名・年齢・
菩提寺名・『心の宝』への感想を記入の上、
下記宛先までご応募ください（匿名で掲載
希望の方は、その旨お書きください）。

〒700-0818 岡山市北区蕃山町 3-5

本行寺内『心の宝』編集局

メ切り 8月末日（当日消印有効）

第 六 教区

京都市 総本山妙満寺

満山会会長・
塔頭大慈院総代
小泉光太郎氏



檀信徒のひろば

ほだいじ
～私たちの菩提寺～

このコーナーでは、各寺院で行っている
特色のある法要や、催し物、檀信徒の旅行会や、
青年会等の取り組みなどを紹介します。

顕本法華宗の総本山であります京都・
妙満寺には、本堂の側から順番に成就院・
正行院・法光院・大慈院という四つの塔
頭があり、この四ヶ院に所属する檀信徒
の親睦団体として「満山会」が活躍しています。
ここ数年はコロナ禍の影響で思うよう
に活動できておりませんが、本山という
ことで全国のお檀家さまに気持ちよくお参りいただきたく
清掃奉仕をはじめ春季大法要や釈尊成道会の際に振る舞われる
「大根だき」のお手伝いなどをさせていただいております。
春や秋など気候のよい時節には、お花見や日帰り旅行を催
して親睦を深めています。平成26年に「開祖日什大正師御生誕
七〇〇年」のお祝いの法要に会津・妙法寺様へお参りましたこ
とは近年の一番の思い出で、この会に参加される方は皆さん信仰
心の篤い、優しい方ばかりです。
なかなか世代交代が進まず、顔ぶれが変わらないことが悩み
の種ですが、コロナ禍が去り、妙満寺でいただいたご縁を大切に、
皆さん健康で、なお一層この会が活発になるよう願っています。



布教部

布教師幹事会

4月25日大川日仰猥下ご臨席のもと、布教師幹事会が開催されました。開会冒頭には大川猥下ご発声のもと、出席者全員で前特命布教師・故吉本乗明師へのお題目三唱。続いて、秋葉敬真布教総監より挨拶があり、今後の宗門布教のあり方や巡回布教の日程等について協議されました。

什青会

総本山清掃奉仕

令和5年4月17日、什青会(会長・児玉常陽師)会員有志と本山塔頭釈



事による、総本山妙満寺の清掃奉仕が行われました。5月の春季報恩大法要の事前準備として、参詣者が気持ちよくお参りできるようにと、山門周辺から参道、仏舍利塔、本堂周辺、大書院周りなど境内全域が清掃されました。

泰心院日章上人



千葉県市原市・泰行寺第46世、本照寺第〇世、常福寺第35世 丹野浄章師が、令和4年5月3日に世寿89歳にて遷化されました。5月10日、吉田大願師(千葉県市原市・寿福寺住職)を導師に葬儀が厳修されました。

略歴

昭和7年生まれ。平成7年、千葉県市原市・泰行寺、本照寺住職。平成11年、千葉県常福寺住職。伽藍復興や寺門興隆に尽力された。

令和4年春号ケンボンクイズ答え

- ①お釈迦さま・日蓮大聖人・日什大正師
- ②遥拝(よっはい)
- ③立正大師(りっしょうだいし)
- ④孟蘭盆(もろぼん)
- ⑤太陽・月・星

当選者 鎗田豊子様(千葉県茂原市)、笠井康子様(千葉県山武市)、大野扶美様(千葉市緑区)、松井澄子様(千葉県山武郡)、長戸マキ工様(鳥取市青谷町)

本山だより

大谷栄一氏著

『日蓮主義とはなんだったのか』

近代日本の思想水脈のご案内

著者の佛敎大学社会学部敎授・大谷栄一氏は、宗敎社会学、近現代日本宗敎史などを専門に研究され、このたび本多日生上人が先導され大きな社会現象となった「日蓮主



義」や、近現代の日蓮聖人門下の歴史をまとめた著作を上梓されました。

明治・大正・昭和の門下の動きや本多上人を中心とした戦前の顕本法華宗の活躍、「立正大師」の諡号宣下に至る経緯などが詳しく書かれています。

定価¥4070(税込み)のところ、本山特別頒布価格¥3300(税込み・送料別)のご案内します。お求めの方は、本山ホームページからもしくは電話・ファックスにてお申込みください。

第631回 御開山会

2月28日、大川日仰猥下大導師のもと、第631回

日什大正師ご命日報恩法要「御開山会」並びに「釈尊御涅槃会」「宗祖日蓮大聖人御降誕会」を厳修しました。

1月に発出された「まん延防止」が延長されたため、宗内僧員および檀信徒の参詣を中止、山内僧員のみで奉行しました。

春季彼岸会・花まつり(釈尊降誕会)

3月21日、大川日仰猥下大導師のもと春季彼岸中日法要が奉行されました。法要に先立ち、京都寂光寺内・大川孝瑛師の法話が行われ、参詣者は熱心に耳を傾けていました。

また、4月2日には、



大川猥下大導師のもと花まつり法要(釈尊降誕会)が奉行され、法要前には京都妙祐久遠寺住職・鹿野恒仁師の法話があり、参詣者一同、真剣な面持ちで拝聴していました。

花まつり恒例、満山会主催「観桜会」は一昨年、昨年に続いて中止となりました。